

第五十一回句会 俳句

【高点句】

- ☆やることの年々減りて年用意 〈安津子〉
- ☆憚ることなき大嚏朝の畑 はた 〈明美〉
- ☆数へ日や手帳めぐりて見返して 〈安津子〉
- ☆熱爛やお国訛りが顔をだす あつかん 〈童心〉
- ☆凍星に時空を越えて塔そびえ 〈伸子〉

【各自一句】

- ・あれ買ったこれは要らぬか年用意 〈撫子〉
- ・結束の羽織の勇冬木立 いさみ 〈郁代〉
- ・膝毛布借りてオーブンカフェの昼 〈明美〉
- ・ぬくいねえ伊予の師走はみかん色 〈伸子〉
- ・北風に残る一葉の揺らぎかな 〈眞澄〉
- ・冬の月法事を終えて道後の湯 〈雄記〉
- ・初咲きを挿し花にして冬薔薇 そうび 〈一馬〉
- ・力込め肩から歩く冬の朝 〈青蛙〉
- ・年用意心苦しく妻まかせ 〈隆司〉
- ・雑踏に揉まれ急かされ年用意 〈安津子〉
- ・平成の断捨離をして年用意 〈童心〉
- ・川面行く母に列なる子白鳥 〈緑〉
- ・捨て難き箱を入れ子に年用意 〈静〉
- ・骨壺の骨をザクザク年用意 〈莫院〉

*以上、40句（3句ずつ13名と1句1名）より、選句は16名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（今回は第3位が同点で3句）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）